

## 平成 27 年度島根県学力調査結果の概要について

平成 27 年度島根県学力調査について島根県及び浜田市の調査結果及び分析をお知らせします。

今回の調査で測れるのは学力の一部であり、このことを踏まえて、単に数値のみで序列化された過度の競争につながらないように留意をお願いします。

### 1 調査の概要

#### (1) 目的

全国学力・学習状況調査等で明らかになった学習指導上の課題の改善状況を検証し、今後の教育施策の充実と学校における指導の一層の改善に資する。

#### (2) 調査日 平成 27 年 12 月 15 日（火）、16 日（水）

#### (3) 実施対象学年及び実施教科等

小学校 3・4 年生：国語・算数

小学校 5・6 年生：国語・社会・算数・理科

中学校 1・2 年生：国語・社会・数学・理科・英語

※ 全対象学年に、「生活・学習意識に関する調査」を実施

#### (4) 用語説明

○「平均正答率」 各学年・教科において、児童生徒個人が正答した問題の割合（％）を県または市町村単位で平均した値。

### 2 島根県・浜田市全体の平均正答率

		国語	社会	算数・数学	理科	英語
小 3	県平均正答率	56.4		67.7		
	市平均正答率	56.8		68.1		
	市－県	0.4		0.4		
小 4	県平均正答率	59.0		69.3		
	市平均正答率	62.9		73.7		
	市－県	3.9		4.4		
小 5	県平均正答率	52.1	48.6	60.6	55.3	
	市平均正答率	49.7	46.4	56.4	54.4	
	市－県	-2.4	-2.2	-4.2	-0.9	
小 6	県平均正答率	61.8	42.8	75.2	64.8	
	市平均正答率	61.4	41.6	73.7	63.0	
	市－県	-0.4	-1.2	-1.5	-1.8	
中 1	県平均正答率	59.0	45.3	58.9	52.3	45.0
	市平均正答率	58.0	44.2	55.2	50.9	44.5
	市－県	-1.0	-1.1	-3.7	-1.4	-0.5
中 2	県平均正答率	67.3	35.1	54.6	40.4	46.7
	市平均正答率	68.0	34.4	51.1	36.6	45.2
	市－県	0.7	-0.7	-3.5	-3.8	-1.5

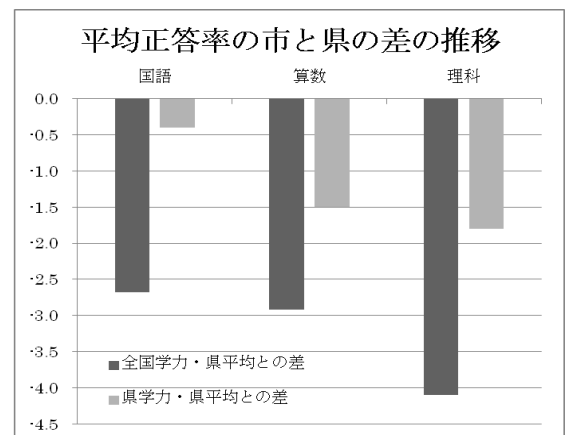
### 3 各教科の状況

#### (1) 教科の結果について

- ・ 小学校3年の国語、算数、小学校4年の国語、算数、中学校2年の国語が県平均を上回った。
- ・ 算数・数学について、小学校5年、中学校1・2年は本調査において3p以上県平均を下回っており、課題である。また、小学校5年の算数は、昨年度の小学校5年（昨年度4月実施）より落ち込みが目立った。
- ・ 小学校6年において、4月の全国調査と12月の県調査での浜田市と島根県の平均正答率の推移を見ると、国語、算数、理科ともに市と県の差は縮まっており、改善が見られる。

#### 小学校6年生におけるH27年度全国及び県学力調査の平均正答率の推移

		全国学力調査 4月	県学力調査 12月
小6国語	県平均正答率	67.1	61.8
	市平均正答率	64.5	61.4
	市－県	-2.6	-0.4
小6算数	県平均正答率	58.9	75.2
	市平均正答率	55.9	73.7
	市－県	-3.0	-1.5
小6理科	県平均正答率	59.8	64.8
	市平均正答率	55.7	63.0
	市－県	-4.1	-1.8



#### (2) 課題と考えられる学習内容

##### ○国語

##### (小学校)

- ・ 話の構成を工夫すること。(小5)
- ・ 自分の思いや考えが伝わるよう音読の仕方を書くこと。(小6)

##### (中学校)

- ・ 文を単語に分けること。(中1)
- ・ 目的に応じて、根拠を明確にして自分の考えを書くこと。(中1)
- ・ 事実と意見を読み分け、要点を理解すること。(中2)

##### ○社会

##### (小学校)

- ・ 都道府県の名称と位置。(小5)
- ・ 日本の国土の範囲と近隣国との位置関係を示した地図の読み取り。(小5)
- ・ 江戸幕府の大名配置の工夫を表した資料の読み取り。(小6)

##### (中学校)

- ・ 奈良時代の農民の負担についての理解をもとにした資料の読み取り。(中1)
- ・ 桓武天皇の平安京に都を移した理由についての資料の読み取り。(中1)
- ・ 日本にヨーロッパ人が来航する背景となったできごと。(中2)
- ・ 資料からの情報を読み取り、考察して自分の言葉で表現すること。(中2)

##### ○算数・数学

##### (小学校)

- ・ かさについての単位(小3)

- ・分数－分数（通分あり）の計算（小5）
- ・単位量当たり大きさ（小5）
- ・内角の和から三角形の一つの角の大きさを求めること（小6）
- ・百分率を理解し、比べる量を求めること（小6）

（中学校）

- ・解が分数になる1次方程式を解くこと（中1）
- ・数量の関係を方程式に表すこと（中1）
- ・等式を変形にして文字について解くこと（中2）
- ・三角形の合同を証明すること（中2）

○理科

（小学校）

- ・ものの体積と温度（小5）
- ・人のからだ（小6）
- ・電流計の使い方（小6）
- ・天気の変化（小5）
- ・ものの溶け方（小6）

（中学校）

- ・生物と環境（中1）
- ・音の性質（中2）
- ・物質の成り立ち（中2）
- ・物質の状態変化（中1）
- ・フックの法則（中2）
- ・ヒトのからだ（中2）

○英語

（中学校）

- ・一般動詞の疑問文（中1）
- ・3文以上の英作文（中1）
- ・英単語を正しく書くこと（中2）
- ・「g i v e + 人 + もの」、「l o o k + 形容詞」の正しい語順（中2）
- ・「W h a t + 名詞」の疑問文（中1）
- ・助動詞の文の語形・語法（中2）

#### 4 生活・学習に関する意識調査の状況

(1) 授業改善に関わること

- ・「授業で学級の友だちと話し合ったり、自分の考えを発表したりする」活動について、小学校6年は4月の全国調査と比べ、増加しており、児童が主体となった授業が増えている。中学校2年は県平均との差が大きい。
- ・「授業のはじめに目標（めあて・ねらい）を示すこと」について、小学校6年は4月の全国調査と比べ改善傾向がみられる（81.9%→82.5%）が、5つの学年（小3、小4、小5、小6、中2）で県平均を下回っている。
- ・「授業の最後に学習を振り返る活動」について、小学校6年は4月の全国調査と比べ改善がみられる（67.3%→75.9%）が、5つの学年（小3、小5、小6、中1、中2）で県平均を下回っている。

(2) 家庭学習について

- ・「1日に1時間以上家庭学習をする児童生徒の割合」は、小学校6年は4月の全国調査と比べ、増加している（63.9%→67.4%）。小学校では県平均より多い学年が多い。中学校1・2年は県平均より少なく、中学校2年は約10pの差がある。

(3) メディア利用について

- ・「1日に2時間以上TVやビデオ、DVDを視聴する児童生徒の割合」は、小学校6年は4月の全国調査と比べ、減少している（62.7%→58.6%）。しかし、県平均と比べると、全学年で県平均より多い。
- ・「1日に2時間以上ゲーム（TVゲーム、PCゲーム、携帯やスマートフォンのゲームを含む）をする児童生徒の割合」は、小学校6年は4月の全国調査と比べ、減少している（28.0%→26.5%）。しかし、県平均と比べると、全学年で県平均より多い。
- ・「1日に2時間以上携帯電話やスマートフォンを利用する（ゲームを除く）児童生徒の割合」は、小学校6年は4月の全国調査と比べ、増加している（10.8%→14.8%）。中学校から割合が増えている。県平均と比べると、全学年で県平均より多く、課題である。

#### (4) 読書について

- ・「1日に30分以上読書する児童生徒の割合」は、小学校6年は4月の全国調査と比べ、増加している（30.5%→33.4%）。
- ・「週に1回以上、授業以外で、本を読んだり借りたりするために学校図書館に行く児童生徒の割合」は、小学校6年は4月の全国調査と比べ、大幅に増加している（26.6%→40.5%）。県平均と比べると多かったり少なかったりする学年はあるものの、4月の全国調査での全国平均が小学校6年の17.6%、中学校3年の8.2%であったことふまえると、全国に比べかなり学校図書館を利用する割合は多いと思われる。

## 5 今後の対応

- (1) すべての小中学校への学校訪問指導を実施し、調査結果を生かして各学校が組織的に授業改善や個別指導を進めるよう働きかける。（実施済み）
- (2) 引き続き、全ての学習の基礎となる国語教育の充実に取り組み、教師の授業力向上、家庭学習の充実、メディアへの適切な関わりという課題に対して継続して取り組む。
- (3) 県教委の「しまねの学力育成プラン」に基づき、県教委と連携して、授業の質の向上、家庭学習の充実等、指導の改善を推進する。